

2022年2月6日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**
第64巻第45号(通算3273号)
教会設立 1959年6月14日

しゅうほう
週報

教会標語

かみさま ひと とも
神様がすべての人と共におられる
ことを証ししていく教会



〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:15-10:30 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人がみな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

こうたんせつだい しゅじつれいはい
降誕節第7主日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしょうめつ
前 奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば てがみ しょう せつ
招きの詞 ペトロの手紙 I 1章 24b-25a節

さんびか ばん あさ しゅ せつ
賛美歌 21-472番「朝ごとに主は」(©JASRAC)

せいしよ ふくいんしよ しょう せつ
聖 書 マルコによる福音書 4章 26-32節

いの ばん ひと め ちよさくけんしょうめつ
お 祈 り 賛美歌 21-360番「人の目には」(©著作権消滅)

ひとつぶ たね ひ いのち うしだ ただし ぼくし
メッセージ 「一粒の種に秘められた生命」 牛田 匡 牧師

さんびか ばん だね ちよさくけんしょうめつ
賛美歌 21-199番「ひとつぶのからし種のよう」(©著作権消滅)

しゅ いの ばん てん わたし ちち きょうだんさんびかかいていいんかい
主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讃美歌改訂委員会)

ささげもの (*)
献 げ 物

は け ん ばん かみ めぐ う せつ
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅくふく うしだ ただし ぼくし
祝 福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん ちよさくけんしょうめつ
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©著作権消滅)

ほうこく ページ さんしょう
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

まね ^{ことば} 招きの詞 ペトロの手紙 I 1章 24b-25a 節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

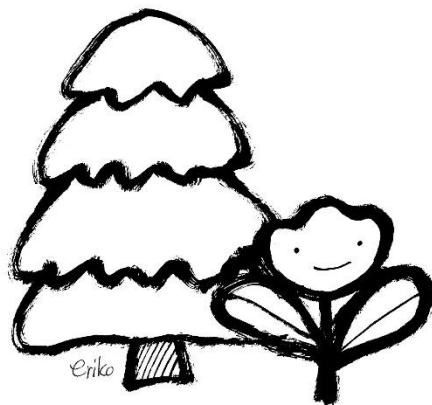
^{24a} 人は皆、草のようで
その栄えはみな草の花のようだ。
草は枯れ、花は散る。

^{25b} しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。

聖書 マルコによる福音書 4章 26-32 節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

²⁶ また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が地に種を蒔き、²⁷ 夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。²⁸ 地はおのずから実を結ばせるのであり、初めに茎、次に穂、それから穂には豊かな実ができる。²⁹ 実が熟すと、すぐに鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

³⁰ また、イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。³¹ それは、からし種のようなものである。地に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、³² 蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」



《先週のメッセージより》2022年1月30日 河内地区有志教会講壇交換礼拝

「マスクありでも仮面なしで」より

八尾東教会・平松 洋一 牧師

聖書 マタイによる福音書 6章1-15節

「マタイ福音書」6章1節以下、イエスは「施し」「祈り」「断食」を例に、自分を偽りがちな人間の浅はかさを問題にしながら、私たちのあるべき姿を教えられました。信仰に基づく善い行いは、神の大きな愛によって生かされている者としては信仰の証しでもあり、大事にしたいことです。時に人に見られる行為であり、同時に人の目から隠されるべき行為ですが、その間を行ったり来たりしている中で、私たちは何を大事にしなければならないのでしょうか。

2節には「施しをするときには、偽善者たちが人から褒められようと会堂や通りでするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない」とあります。原文では「偽善者」は俳優という意味があり、人に見られるために本来の自分でない仮の姿、仮面をかぶった様子が表現されます。また、「ラッパを吹き鳴らす」には虚栄心の表れ、見栄を張るといふ誰にでも覚えのある人間的な行動が表現されます。神は私たちがどう取り繕うともすべてお見通しです。隠れた所におられる神にそのまま見ていただくだけで良いのに、私たちは人の評価が気になってしまいます。隠すどころか、大通りの角に立ってくどくどと述べて、仮面を何重にも重ねてしまうのです。しかしイエスは、何重にも仮面を重ねなくてもよいといわれます。なぜなら神は仮面の下の本当のあなたの思いを、あなた自身をすべてご存知で、ありのまま向き合ってくれることを一番に望んでいるからです。覆い隠すように付け足す必要はないのです。そのことを教えるために、イエスは「祈り（主の祈り）」を教えてくださいました。

「ガラテヤの信徒への手紙」4章6節に「あなたがたが子であるゆえに、神は『アッバ、父よ』と呼び求める御子の霊を、私たちの心に送ってくださったのです」とあります。祈りにおいて、私たちはまず祈りの聞き手である神を呼びますが、イエスはここで、幼い子どもがお父さんをパパと呼ぶように、親しみを込めて「アッバ」と呼びかけました。私たちもそうするように導かれています。また「あなたがたが子であるゆえに」ともありましたが、それは私たちは最初からその存在を良しとされているということです。神にとっては、あなたも仮面をかぶらなくても取り繕わなくても、本来的に素晴らしい存在なのです。マスクは英語で仮面という意味もあります。今は感染予防のためにマスクをする必要がありますが、神の前に自分を偽るマスク（仮面）は必要ありません。神は、自らマスクの下に隠してしまいがちな本当のあなたと出会いたいのです。それが、私たちの「大前提」なのです。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 1月30日 河内地区有志教会講壇交換礼拝（降誕節第6主日礼拝）
 礼拝出席 大人5名 中継動画再生数 14回
 献金 大人4,300円 感謝

◎次週 2022年2月13日（日）降誕節第8主日礼拝
 招きの詞 ローマの信徒への手紙 5章5節
 聖書 詩編 126編 1-6節、ローマの信徒への手紙 5章3-5節
 メッセージ「苦難は絶望には終わらない」牛田匡牧師
 賛美歌 21-17番（©P.D.）、21-342番（©讚美歌委）、21-90（©JASRAC）
 礼拝はインターネットでライブ中継配信いたします。

◎お知らせ

- ・2月期の「教会を考える会（役員会）」を本日行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が一向に収まっていませんので、感染予防のために、教会堂に集まって対面で行うのではなく、書面決議にすることになりました。何かございましたら牛田牧師もしくは役員さんまでご相談ください。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染爆発「第6波」が続いています。大阪府では先月1月27日から今月20日までは「まん延防止等重点措置」が要請されています。そのような状況ですので、ご自身が感染を予防するためにも、他人に感染させないためにも、また逼迫している医療現場をこれ以上崩壊させないためにも、教会堂に集まる形での礼拝にこだわらず、インターネットの中継配信を利用したご在宅での礼拝など、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。教会では換気やマスク着用など感染予防に留意しながら礼拝をいたしますが、教会にいらっしゃる際には、ご自身の体調にご注意いただき、検温、手指消毒とマスク着用、お隣の方との間隔をあけた着席をお願いいたします。「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページからダウンロードしていただくことができます。
- ・2月11日（金）14～16時に、「2.11集会（信教の自由を守る日）」がオンラインで開催されます（コロナの感染拡大に伴い、天満教会での開催がなくなりました）。講師は崔善愛さんで、「侵略者としての天皇制 ～外国人とみなされて」という講演があります。主催は日本基督教団大阪教区・「教会と天皇制」を考える特別委員会です。参加費は無料です。オンラインでの参加申込の締め切りは2月9日（水）です。参加希望の方は、「お名前・教会名（所属名）・メールアドレス」を明記の上、大阪教区事務所までお申し込み下さい。uccj-osk@mbr.sphere.ne.jp
 右のQRコードからもお申込みいただけます。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
2/13	牛田牧師	（信教の自由を守る日）
2/20	岡嶋伝道師	聖書を読む会？・（午後）河内地区壮年会？
2/27	水谷牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援 （午後）河内地区壮年会？
3/6	牛田牧師	ユークリスタ・教会を考える会

2.11 集会（信教の自由を守る日）
**「侵略者としての天皇制
 ～外国人とみなされて」**

講師 **崔善愛さん**

2月11日は信教の自由を守る日ですが、その自由を語る前に、過去の克服をめざすものとして、天皇制を問うこととどまらず、キリスト教宣教師が果たしてきた植民地主義のことを、奥に立ち止まって考えてみたいと思います。先日、カナダやアメリカの先住民の子どもたちが、家族から引き離され、寄宿舎に「教育」されたまま亡くなった「遺骨」が多数発見されたことがニュースになっています。これら寄宿舎の経営者はキリスト教の宗教師です。キリスト教とキリスト教徒を分けて考えると、歴史的にキリスト教徒は、世界の多くの土地を先住民から奪い、「侵略者」となってきました。天皇制もまたアジアの人々にとっては、侵略者の看板、象徴です。その象徴への恐怖は、いまもアジアの人々の記憶から消えていません。わたしたちがキリスト教徒として、あるいは日本に住むものとして、この歴史的事実も直視し、それを悔い改めることは、今、とても大切なことではないでしょうか。（崔善愛）

＊2000 参加も可能＊
 2000 参加の方は、お名前・教会名（所属名）・メールアドレスを記入して申し込みたい。
 【2000 申込先】 大阪教区事務所 e-mail: uccj-osk@mbr.sphere.ne.jp
 【2000 申込締切】 2022年2月9日（水）
 ＊2.11 集会前日までに大阪教区事務所より、招待メールが届きます。

日時 2022年2月11日（金・休）午後2時～4時
 会場 日本基督教団 天満教会
 大阪北区天神西町4-15
 （地下鉄「南森町」、JR 東西線「大阪天満宮」駅から南へ徒歩5分）
 主催 日本基督教団 大阪教区
 担当 「教会と天皇制」を考える特別委員会
 連絡先 080-3112-3977（非11）